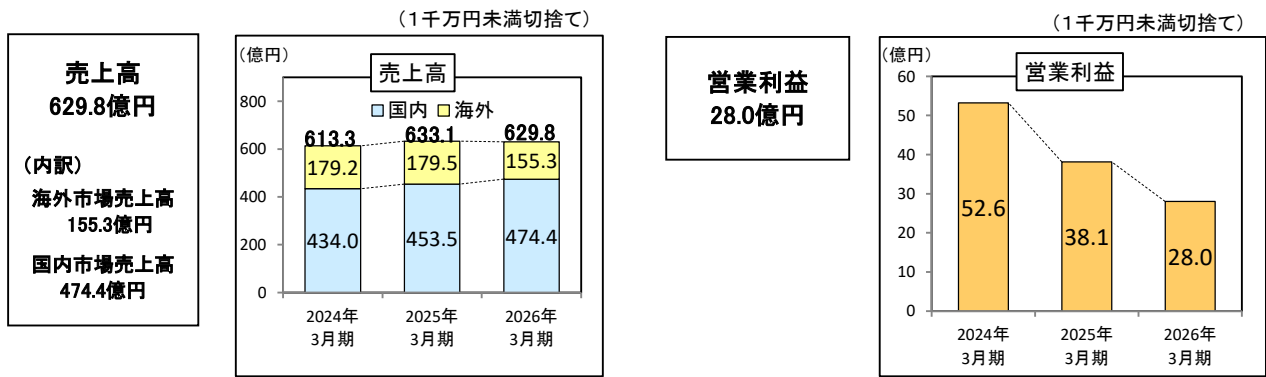


アイホン株式会社 2026年3月期決算(連結)のポイント

売上高 国内市場において、集合住宅市場、ケア市場を中心に売上が増加したものの、海外市場において、北米売上が大幅に減少し、連結売上高は減少しました。

利益 相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率が減少したことによるセールスマックスの悪化や開発費等の経費の増加により、営業利益以下の利益はすべて大幅に減少しました。



〔売上〕

国内市場全体で20.8億円の増加(前期比 4.6%増加)

◆住宅市場

賃貸集合住宅向けの新築物件の受注が好調で売上が増加。さらに、分譲集合住宅向けのリニューアル売上が増加。住宅市場全体として6.4億円の増加。(前期比 1.8%増)

戸建住宅市場

◎防犯意識の高まりを捉えた積極的な受注活動の奏功。

▲一部商品に納入遅延。

集合住宅市場

◎リニューアルにおけるセキュリティニーズは高水準を維持。

◎「Pabbit」の積極的提案活動奏功による売上増。

◆ケア市場

「見守り支援」ニーズに対応する課題解決型提案が奏功し、病院及び高齢者住宅向けのリニューアル売上が大幅に増加。

ケア市場全体として10.5億円の増加。(前期比 13.9%増)

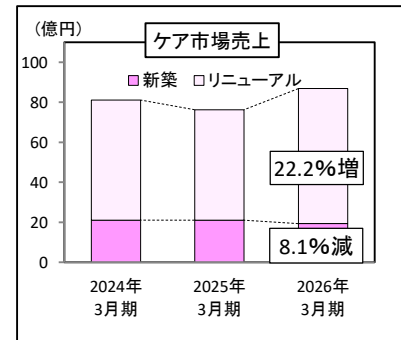
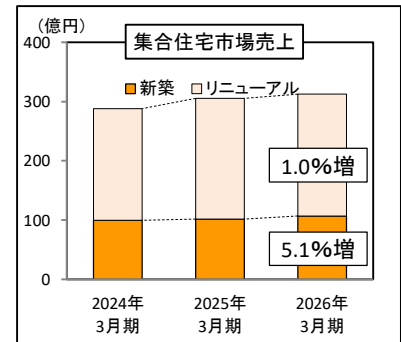
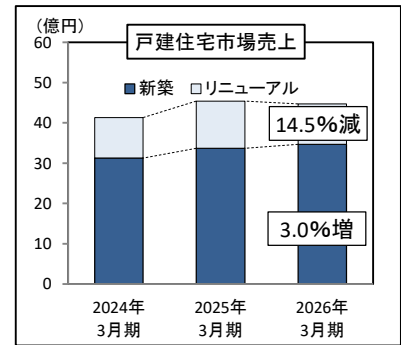
ケア新築市場

▲病院、施設等の新築着工数の減少。

ケアリニューアル市場

◎病院、施設等で「見守り支援」ニーズが高水準を維持。

◎補助金活用によるテクノロジー導入支援の追い風を捉えたソリューション営業の奏功。



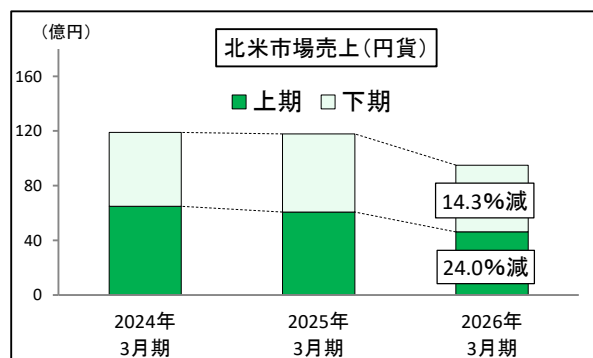
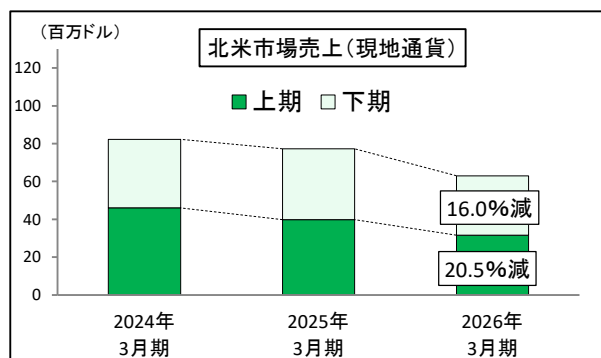
国内市場

集合住宅市場の売上が増加したこと、ケア市場におけるリニューアル売上が増加したこと等により、国内市場全体で前期比 4.6%の増加。

海外市場全体で24.2億円の減少(前期比 13.5%減)

◆北米市場 現地通貨ベースで減少(前期比 18.3%減)
円貨ベースでは22.7億円の減少(前期比 19.3%減)

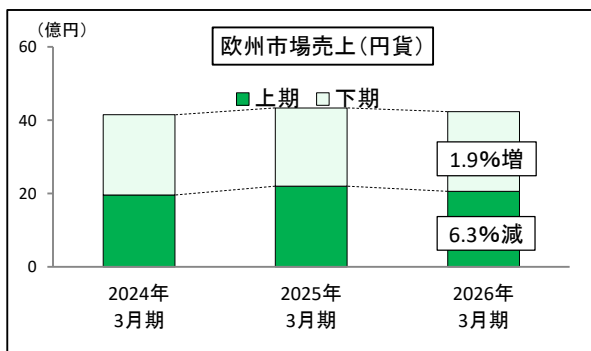
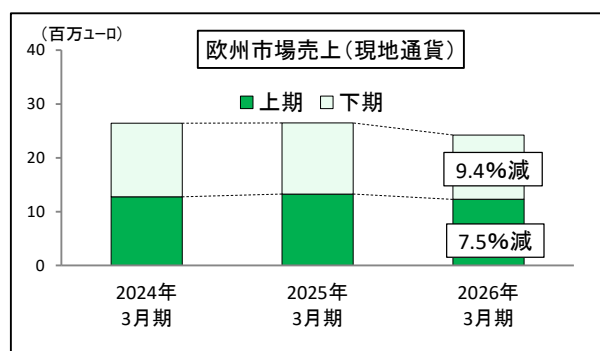
▲関税を中心に米国経済が不透明な中での、販売代理店の在庫抑制。



◆欧州市場 現地通貨ベースで減少(前期比 8.5%減)
円貨ベースでは0.9億円の減少(前期比 2.3%減)

▲欧州経済の停滞

▲欧州や中国企業との価格競争激化。



海外市場

主力の北米市場において、関税を中心に米国経済が不透明な中、販売代理店の在庫抑制により当社製品の購入が控えられ、現地通貨ベース、円貨ベースともに売上が大幅に減少。欧州市場においても、欧州経済の停滞や競合との価格競争激化により売上が減少。

〔利益〕

営業利益 10.1億円の大規模な減少。(前期比 26.5%減)

経常利益 9.9億円の大規模な減少。(前期比 23.8%減)

親会社株主に帰属する当期純利益11.5億円の大規模な減少。(前期比 31.9%減)

▲相対的に利益率の高い海外市場の売上構成比率減少によるセールスマックスの悪化。

▲開発費等の経費が増加。

〔配当〕

当期(2026年3月期)の期末配当は、当初の予定とおり1株当たり80円とし、
年間で1株当たり130円(中間配当金50円)の配当を予定。

次期(2027年3月期)は、当期に引き続き、年間で1株当たり130円の配当を予定。